

# ブルーカーボンオフセット・クレジットの申請を可能にする藻場現存量の簡易評価手法の開発研究

(予算区分 研究費 研究期間 2022～2023 年度)

担当：水産・海洋技術研究所 深層水科 清水一輝

## 【研究の背景とねらい】

- ・脱炭素社会の構築に向け、ブルーカーボンが新たな炭素吸収源として世界的に注目されています。
- ・2020 年度からブルーカーボンオフセット・クレジット制度の試行が開始され、藻場の維持・拡大のために必要な活動資金を調達する新たなツールとして期待されています。
- ・本県は、榛南地域や伊豆半島など、多年生の大型海藻の繁茂に適した岩礁域を多く擁し、クレジット制度を活用して吸収源対策を進める好適地です。
- ・クレジット制度の活用に向け、申請に必要な藻場面積及び単位面積当たりの湿重量を漁業者活動組織が簡易かつ低廉に一定の精度で評価できる技術手法の開発を行います。

## 【これまでに得られた成果】

(2022 年度までの成果)

- ・水中カメラを用いた目視調査による被覆割合データの解析から、藻場の分布面積を算出する基礎的技術を開発しました。
- ・潜水によるカジメの坪刈り調査から、単位面積当たりの湿重量と被覆割合との関係式を明らかにし、水中カメラ調査の被覆割合から単位面積当たりの湿重量を算出する手法を開発しました。



図1 水中カメラ調査から算定した藻場分布

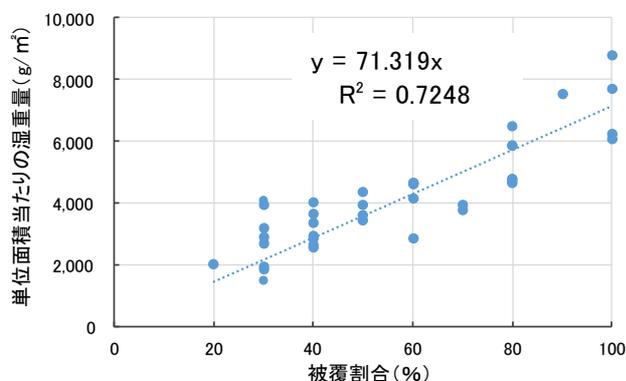


図2 被覆割合と湿重量の相関式

## 【期待される成果】

- ・榛南海域の漁業者等が自らクレジット制度を活用し、藻場の維持・拡大のための活動資金の調達が可能となります。
- ・開発した手法を県内他地域の藻場に応用することで、申請可能な県内全藻場におけるクレジット制度活用を支援できます。

## 【今後の計画】

- ・榛南海域のカジメ藻場において、水中カメラを用いた簡易調査の精緻化を図るとともに、現場実装に向けた検証を行い、漁業者向けマニュアルを作成します。
- ・今後の静岡県全体のクレジット制度を活用した藻場回復活動の拡大を目指していく上で、県内他海域のカジメ藻場及び他の海藻種への応用の可能性も検討します。

(作成 2023 年 4 月)